

# 银杏坂タイム

◎ 仙台市 子供相談支援センター

所長 大友 重明

仙台市青葉区錦町 1-3-9

TEL 022-214-8602 (相談支援係)

022-214-8848 (青少年指導係)

第 155 号 令和 5 年 3 月 8 日

## 関係機関職員研修会が開催されました

2月21日に山梨県と東京都に拠点のある一般社団法人グレイスロード職員の坂本拳さんをお招きし、ゲームやネット依存に関する理解を深める研修会を実施しました。研修会の前に、坂本さんと話をさせてもらう中で、自身もゲーム依存になり、施設利用者であったこと。その後、同所で勤務するようになり回復プログラム等を担当していること。啓発のためのセミナーにさまざま呼んでもらえるが、いまだ依存症の治療中の身でもあり、「先生」などと言ってもらえるような存在でないと考えていること。依存症は誰にでもなる可能性があるが、取り組み次第で回復するものであり、「負のイメージ」を解消していくために自分の体験を交えて話をさせてもらっているとのことでした。



今回の研修会では、70名近い参加のみなさんと学ぶことができました。坂本さんの話を要約しますと、御自身も育ち方やコンプレックスで悩み、学生時代の実習中のストレスなどがきっかけでゲーム依存になったとのことでした。保護者・支援者としてできることは、まずインターネットやゲーム環境の現状を理解することです。(ためになるゲーム、友達づくりになるゲームがある一方、年齢制限(CERO)などを設けているものもあります)また仮想ではあっても、コミュニケーションツールとして、称賛される経験を味わえたりするメリットがあるが、埋没費用効果から抜け出せなくなったりしていることもあるようです。また意図的に「終わりを設定しない」ゲームもあるということでした。

昨年、当センターのセミナーで東北会病院の村田先生にも同様の話をいただきましたが、「依存=悪」という概念ではなく、「いい意味で依存できるもの(夢中になるもの)を複数持つ」ように支援していきたいとのこと、グレイスロードでは回復プログラムの中で、「仲間の存在は鏡」という考えのもと、現実世界での関わりを大切にして、一緒にご飯を食べる、スポーツをする、ミーティングをする、四季を楽しむなど生活リズムを整えることを基本として関わっているとのことでした。ゲーム機器の利用に関するルール作りも必要かと思いますが、親目線だけでなく、一緒に作っていくということも大切なようです。

**報道されておりますとおり、当センターは次年度、(仮称)こども若者相談支援センターとなる予定です。一部業務に変更がありますので、詳細は次年度お伝えいたします。**